

項目	No.	意見・要望	事務局回答(当日)	今回回答・対応方針
議事(1) 根浜海岸の 現状と課題	1	・ 根浜海岸と片岸海岸の砂の質は同じようなものなのか?《小笠原委員》	・ H25 釜石市根浜海岸砂浜再生可能性検討業務報告書によれば、同程度である。	今年度調査で、概ね以下のとおりであった 根浜は平均粒径 0.3mm ・ 片岸は平均粒径 0.5mm
	2	・ 砂浜と河川とのつながりを考える必要がある。河口部の砂洲がどうなるかが大きなポイントとなる。回復した砂浜は、浅いところに堆積していた砂が戻ったものではないか。鶴住居川の河口処理について考えていく必要がある。《田中委員長》	・ 了解した。	・ 河口閉塞対策として、まずは根浜海岸から河口への砂の流入を防止するため、防砂突堤の整備を予定している。
	3	・ 震災・津波より多少砂浜が戻っている。一方で地震での地盤沈下が隆起している。地盤変動と根浜海岸の汀線変化との関連付けはできるのか?《加藤委員》	・ 指摘を踏まえ、汀線変化との関係を丁寧に分析する。	・ 震災で 60cm 沈下、2016 年調査で約 17cm 隆起(国土地理院)。 ・ 隆起も含め、浅場に堆積していた砂が打ち込まれたと推察される。
	4	・ どのくらいの砂浜を目標にするのか、どのくらいの砂の量、砂浜復元な技術的範囲が必要なのか?地元からの要望はあるのか?《加藤委員》	・ 6 月下旬予定の懇親会により地元のニーズ(浜幅・範囲等)を把握する。	・ 工事实施となった場合は、地元要望を踏まえて次年度に再生範囲、浜幅などを検討する。
議事(2) 調査計画 (案)について	5	・ 砂浜再生では生態系の面でも意義があると考え、調査するのが望ましい。 ・ 根浜海岸と片岸海岸の両方を調査していくことで砂浜再生後の状況を確認できる ・ 鶴住居川の河口閉塞の懸念があるため、栄養塩の動態変化等に留意しながら鶴住居川と根浜海岸の縁を切ることが有効と考える。 ・ 片岸海岸前面の砂の活用については、コスト比較や削減に伴う養殖等水産業へ影響等の観点から、総合的に検討する必要がある。《松政委員(事前ヒアリングの意見紹介)》	・ 了解した。環境影響評価に際し、工事影響の対象(漁法や魚種)と評価指標(調査項目)を設定する必要がある。 ・ 漁業者へのヒアリングを実施し、意見要望もあわせて聴取する。	・ 生物調査を実施済。今回の第 2 回委員会で報告する。 ・ 防砂突堤が整備されれば、河口と根浜海岸が縁切りされる。 ・ 工事实施となった場合は、土砂活用の利害得失を整理し、報告する。
	6	・ 地元としては、根浜の砂浜再生を推進したい。調査計画(案)について、2 月に技術的な結果は出るのか?ラグビーワールドカップを控え、砂浜再生した姿を東日本大震災で支援していただいた世界の方々にアピールしていきたいので、スケジュールを考慮していただきたい。《似内委員》	・ 2 月に答えを出す予定。	・ 今回の第 2 回委員会で報告する。
	7	・ 限られた期間での検討で難しいのでしっかり調査して欲しい。 ・ 底質・水質の調査もきちんとやって欲しい。 ・ 漂砂機構をイメージしながら、養浜、抑制施設を検討して欲しい。 ・ 環境影響評価はどのようにしていくか、追々具体化して欲しい。《加藤委員》	・ 漂砂メカニズムが震災で変化したもので安定性の評価を実施する。 ・ 制御施設について H25 業務でもシミュレーションを実施しており、知見として活用する。 ・ 工事中、および、砂浜を作った場合の影響について、水産研究センター、漁協等にヒアリングし、評価指標を抽出する。	・ 養浜後の海浜安定性評価(シミュレーション)を実施し、今回の第 2 回委員会で報告する。 ・ 工事实施となった場合は、次年度以降に環境影響評価方法を提案
	8	・ 河口部をどういう風に処理するか?河口処理が難しい。砂浜と河口処理に関する計画をしっかりと立てるべき。《田中委員長》	・ 了解した。	・ 河口閉塞対策として、まずは根浜海岸から河口への砂の流入を防止するため、防砂突堤の整備を予定している。 ※No2 と同じ
議事(3) 今後の委員 会の進め方 について	9	・ 地元で構成する懇談会でニーズの把握 ・ 懇談会 6 月 27 日開始予定 ・ 技術的課題がある場合は、2 月を待たずに検討委員会又は別途相談 ・ P24 のユーザ代表というのはトライアスロン、地元有識者などを示している。	・ 了解した。	・ 懇談会の開催結果を随時報告する。
	10	・ 懇談会の実施には地元住民の誤解を招かないように、目的は砂浜再生の可能性検討であることを丁寧に説明することが望ましい。《小笠原委員(事務局より意見紹介)》	・ 了解した。	・ -
	11	・ 生物調査の実施予定は?《煙山委員》	・ 委員および関係者ヒアリングにより、必要な調査項目を検討した上で、実施する。	・ 今回の第 2 回委員会で報告する。
委員長総括	12	・ 生物(環境)調査結果を委員会へ報告するタイミングはないのか?《田中委員長》	・ 個別相談か委員会開催かを含め、適宜判断の上、相談したい。	・ 今回の第 2 回委員会で報告する。
	13	・ 検討の方向性について了承。		
	14	・ 環境調査について意見を踏まえ適宜実施を検討すること。		
	15	・ 委員会と懇談会の役割分担を踏まえ情報交換を密にして進めること。		
	16	・ 委員会の追加開催や個別相談等により、専門の立場からの意見を取り入れ検討を進めること。		